

## — この時期に大切な 聞こえの問題 —

### この時期に大切な聞こえの問題とは

一見、普通に聞こえているように見えるのですが、実は聴力がおちている場合があります。普通の音や声はわかるのですが、小さな音のききとりや、ことばの細かいところがわからなくなってきます。このため発音がおかしくなったり、次第にことばが遅れてきたりします。

3歳ごろのお子さんでは、しんしゅつ性（滲出性）中耳炎という中耳炎が、10人のうち1人くらいみられます。そして、しんしゅつ性中耳炎のお子さんのうち5人に1人は、聴力がおちている可能性があります。

しんしゅつ性中耳炎の聴力は、耳鼻咽喉科で治療を受けることで回復します。

しんしゅつ性中耳炎がない、あるいは治っても聴力が回復しない場合は、専門施設で聞こえの検査を受ける必要があります。

※ しんしゅつ性中耳炎以外では、おたふくかぜにかかった後などのウイルスによる難聴や、すいまく炎の後遺症、そして年齢が長じるにつれて進行してくる難聴が代表的です。生まれてすぐ産院でおこなわれている「新生児聴覚検査」を受けていない場合は、生まれつきの難聴もこのころ見つかる場合があります。

#### しんしゅつ性中耳炎とは

中耳（鼓膜の奥）にしんしゅつ液がたまる中耳炎です。

中耳炎といっても、痛くもなく、耳だれもでませんので、気がつきにくく、「少し聞こえにくい」「テレビの音を大きくする」「聞きがちが多い」などと言って耳鼻科を受診され、はじめて分かることが多いようです。なかには、鼻やのどの病気で耳鼻科を受診されたときに、はじめて発見されることもあります。しんしゅつ液が濃くなると、鼓膜の動きがわるくなり聴力がおちてきます。

### こんなサインに注意！

よく中耳炎にかかる ・鼻づまり、鼻汁、口で息をすることがよくある

- ・ しんしゅつ性中耳炎がよくみられます。耳鼻咽喉科で見てもらいましょう。
- ・ しんしゅつ性中耳炎は、鼻の奥（上咽頭）の炎症が耳に及んでおこりますから、お鼻やのどの治療があわせて必要になります。

聞き返しが多い ・お子さんの聞こえに気になることがある

・ まわりの人（保育士さんなど）から聞こえをみてもらうよう言われた

- ・ 聴力がおちている可能性があります。聞こえの検査を受けましょう。

話しことばが遅れている ・発音がおかしい

ことばや発達の検査を受ける必要がありますが、同時に聴力がおちていないかを確認する必要があります。聞こえの検査を受けましょう。

※ サスセソ、ツ、ラリルレロなど3歳では発音が難しい音もあります。